

～ 大阪城・大手前・森之宮地区 ～

大阪城公園PMO事業

大阪市では、大阪府とともに平成24年12月に策定した「大阪都市魅力創造戦略」のなかで、大阪城公園を重点エリアのひとつに位置付け、新たな魅力を備えた世界的な歴史観光の拠点として整備を推進することとしております。

「民が主役、行政はサポート役」との基本的な考えのもと、民間事業者の柔軟かつ優れたアイデアや活力を導入し、世界的な観光拠点に相応しいサービスの提供や新たな魅力の創出を図るため、民主体のPMO (Park Management Organization) 事業者が総合的かつ戦略的に公園及び公園施設を指定管理者として一体管理する「パークマネジメント事業」を平成27年度より導入しました。

PMO事業者

PMO事業者は、大阪城公園や公園内の施設の指定管理者として、また既存施設の改修・改築による活用や新たな魅力ある施設の設置運営などを実施する魅力向上事業者として、公園全体を総合的、戦略的に管理運営して行く事業者です。

魅力向上事業

- 既存施設の活用
 ・旧第四師団司令部庁舎 ・大阪迎賓館 ・もと音楽団事務所
 新たな施設の整備、運営
 ・森ノ宮駅前エリア ・大阪城公園駅前エリア
 回遊性の向上や、新たなイベント事業

PMO事業エリア、提案 施設、エリア等



- 【課題】
- 施設整備に向けて、事業者や関係機関と十分な意見交換や協議が必要。
 - 施設整備後の運用について、魅力的な施設となるよう施設利用の状況等を見ながら、適正な管理が必要。
- 【今後の方向性】
- 観光拠点化に向けて、より魅力のある施設となるよう調整していく。

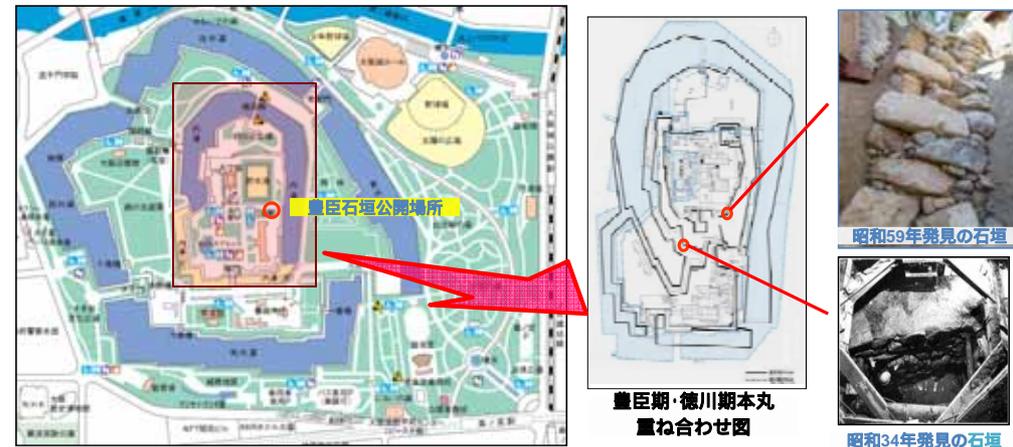
豊臣石垣公開事業

太閤秀吉により天下統一の拠点として築城された豊臣期大坂城は大坂夏の陣(1615年)で落城しましたが、徳川幕府は豊臣期大坂城を覆い隠すように徳川期の大坂城を築き、豊臣期の大坂城は地下に眠ったままです。

昭和34年に「大阪城総合学術調査団」を組織し、大阪城の謎の解明を進めた結果、地下約9mに現在の大阪城の石垣とは違う、豊臣期の石垣が初めて確認されました。

昭和59年には、水道工事に関連して地下1.1mの位置に、石垣下端の高さが昭和34年に発見された石垣の天端と同じ豊臣期の石垣が本丸内地下に良好な状態で残存することが確認されました。しかし、世紀の大発見であったこれらの石垣は調査が終わると、再び埋め戻され、現在の大阪城では豊臣期の石垣を見ることはできません。

そこで、大坂夏の陣から400年の節目を迎えるにあたり、豊臣秀吉が築いた初代大坂城の石垣を再び掘り起し、大阪城の持つ、新たな歴史文化の魅力を皆様と共有したいと考えています。



太閤なにわの夢募金

募金目標額	5億円
募金期間	平成25年4月1日～平成29年3月31日(予定)
募金の対象者	広く国内外の個人、法人、団体からの寄附を募ります
募金サポーター	各界著名人32名

- 【これまでの成果】
- ・募金開始から約1年3ヶ月で1億円を突破 (H26年7月時点)
 - ・平成27年4月末現在、募金件数 約3700件、募金額 約1億3700万円



- 【課題】
- ・9割以上が個人の寄附であり、大阪や関西圏に止まらず、日本全国からの寄附をいただいております、大阪城の歴史魅力の発信という点で大きな広がりを見せているが、目標額(5億円)に届いていない。
 - ・平成26年度に実施した遺構発掘調査により発見された徳川期遺構について、現地に保存しつつ地下の豊臣期石垣を公開するよう文化庁からの指導を受けたこともあり、大阪城の特徴である歴史の重層性を体感できる施設整備に向け計画変更に着手。

- 【今後の方向性】
- ・個人だけでなく法人にも寄附呼びかけを強化するとともに、様々なPRを行う。
 - ・遺構調査について、文化庁と協議しながら進めていく。

～ 大阪城・大手前・森之宮地区 ～

大手前地区のまちづくり

大阪城の西に位置する府庁本館のある大手前地区では、平成23年2月に策定した「府立成人病センターの移転を前提とした大手前・森之宮地区の土地利用計画（素案）」*に基づき、まちづくりを進めてきました。

* 「森之宮地区のまちづくり」の部分については、「府立成人病センター跡地等のまちづくり方針」（平成26年12月）に継承しています。

府庁本館「正庁の間」の復元(庁舎を活用したにぎわいづくり)

大正15年に竣工し、モダニズム建築のさきがけとなるデザインの大阪府庁本館。その中で、5階中央にある「正庁の間」の室内は、大正時代を彷彿させる壮麗な装飾レリーフが全面に施され、国内最大級の大きさのステンドグラスや大阪城が望める東窓など、みどころがたくさんあります。大正時代当時の姿に復元改修を行い、平成24年1月から、一般公開や府民参加行事などに活用しています。

府庁本館耐震改修工事

築後89年が経過した大阪府庁本館は、耐震性の向上と老朽化した内装・設備の更新のため、東館の耐震改修工事等を実施しています。（平成28年度完成予定）
なお、西館は耐震完了後撤去する予定です。（平成29年度予定）

大阪城公園と最寄駅を結ぶ歩行者空間ネットワークの形成

谷町四丁目駅と大阪城公園を結び、大手前地区の回遊性を高める散歩道として、大手通の歩道拡幅や街区内の歩行者用通路（街区中通り）を整備しています。
（街区中通りは平成28年度完成予定）

府立成人病センターの移転

難治性がんを中心とする高度・先進的ながん医療に対応した機能の強化、森之宮の現施設の狭小化によりがん診療の高度化等に対応できないことや諸室の配置の非効率化、施設や設備の老朽化への対応等のため、大手前地区への移転整備を行っています。（平成28年度末開院予定）

重粒子線がん治療施設の整備

隣接する成人病センターをはじめ、府内のがん診療拠点病院との連携のもと、府民に安全で質の高い最先端のがん治療を提供する重粒子線がん治療施設を整備しています。（用地は大阪府立病院機構が取得し、事業方式は民設民営）（平成29年度末開設予定）

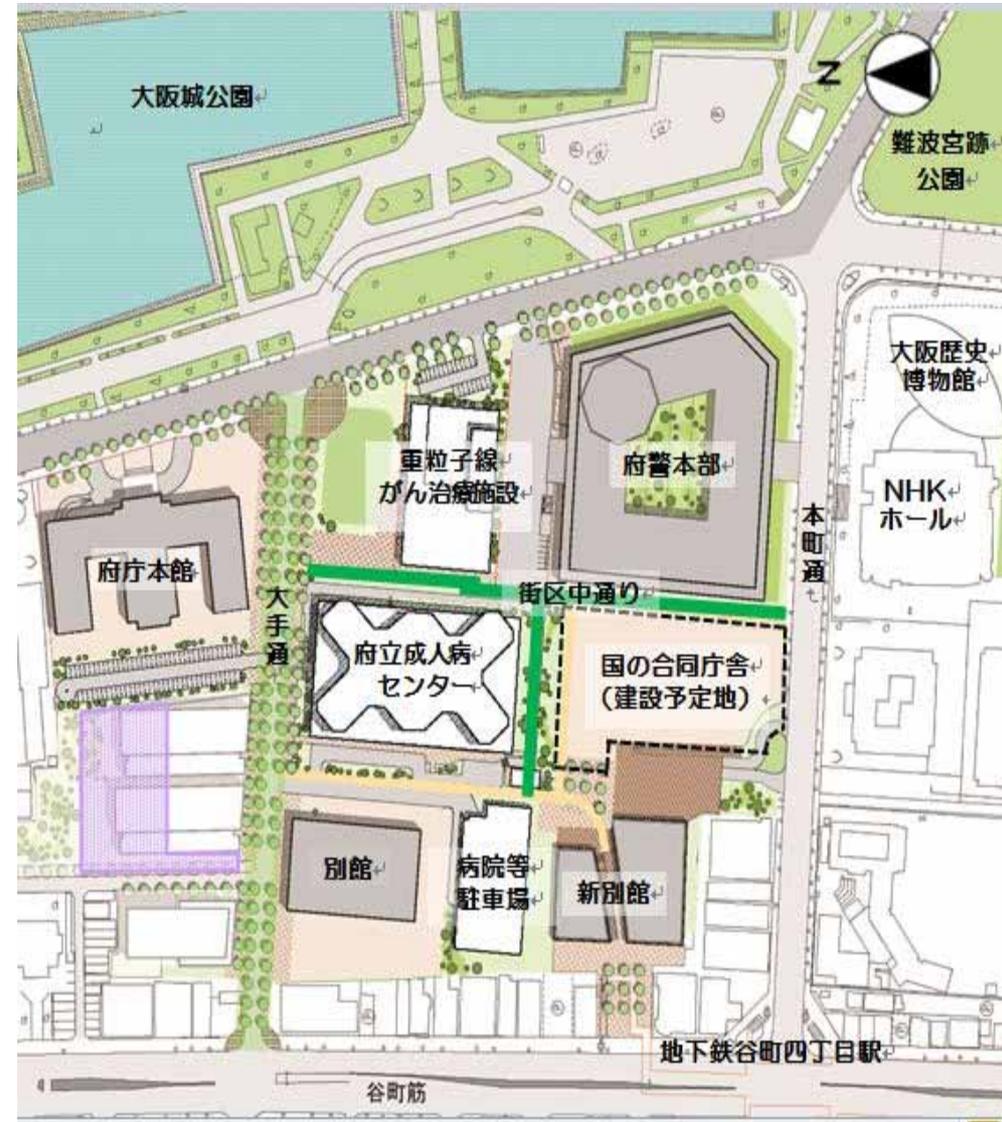
【課題】

・ 複数の施設の整備が同時並行で行われていることから、整備計画・スケジュール等の整合を図る必要がある。

【今後の方向性】

・ 関係機関等と十分に調整を行い、整合のとれたまちづくりを進める。

大手前地区配置予定図(平成27年8月現在)



～ 大阪城・大手前・森之宮地区 ～

府立成人病センター跡地等のまちづくり方針【概要】(H26.12策定)

今後の大都市・大阪における超高齢社会に対応したまちづくりのあり方として、今いる住民が住み慣れた地域で安心して快適に住み続けられ、多様な世代の新たな住民を惹きつける、課題解決型の活気あるまちづくりが求められる。

府立成人病センター跡地等のまちづくりについては、その立地特性を活かし、大学の都心回帰傾向を捉えた「高等教育・研究機関」の立地や、超高齢社会のニーズに対応する「健康・医療・介護関連産業」などの立地により、森之宮周辺の活性化の先導役となることが期待される。

コンセプト

『多世代が交流する、学びと健康とにぎわいのまち』

～交通利便性と都心部最大のみどりを活かした人とまちを元気にする拠点～

土地活用
ゾーニング
導入機能



多世代交流居住ゾーン

《子育て・ファミリー世帯向け居住機能

- ・分譲マンション、賃貸マンション、保育所等

《高齢者向け居住機能》

- ・有料老人ホーム、特別養護老人ホーム、高齢者向け住宅等

周辺との一体的なまちづくり

《歩行者導線や広場、緑地等の整備》

- ・駅周辺につながる歩行者導線の整備
- ・住環境改善に資する広場、緑地等の整備

にぎわい創出ゾーン

《高等教育・研究機能》

- ・大学、研究機関、専門学校等

《健康・医療・介護分野の産業・研究機能》

- ・高齢者の生活支援サービス施設等
- ・健康・医療・介護関連の製品・サービスの実証の場となる施設及びショールーム等

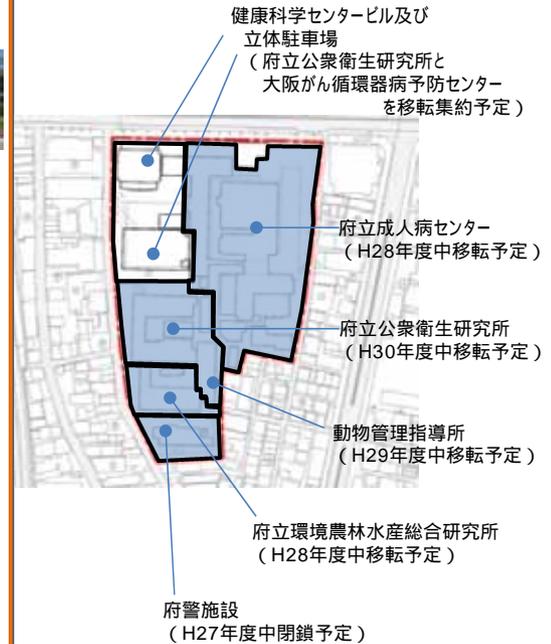
《地域文化交流機能》

- ・カルチャーセンター、コミュニティ・カフェ等

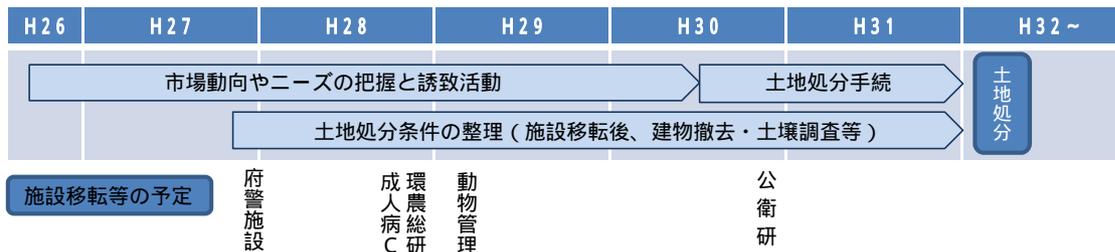
《商業・サービス機能》

- ・商業施設、専門小売店、飲食施設等

府関連施設の移転等検討状況



今後の進め方



【これまでの取り組み】

- ・「府立成人病センター跡地等のまちづくり方針」策定 (H26.12)
- ・全国の大学等への郵送等による情報提供とアンケート実施 (H27.1)

【課題】

- ・まちづくり方針に沿った土地の処分（大学・企業等の誘致）
- 【今後の取り組み】
- ・継続的なPRや情報提供、市場動向やニーズの把握を行い、大学・企業等の誘致に努める。